

「桶狭間の合戦」を紙芝居に

豊明高イラストレーション部が制作

豊明高校イラストレーション部のメンバーと紙芝居の原稿



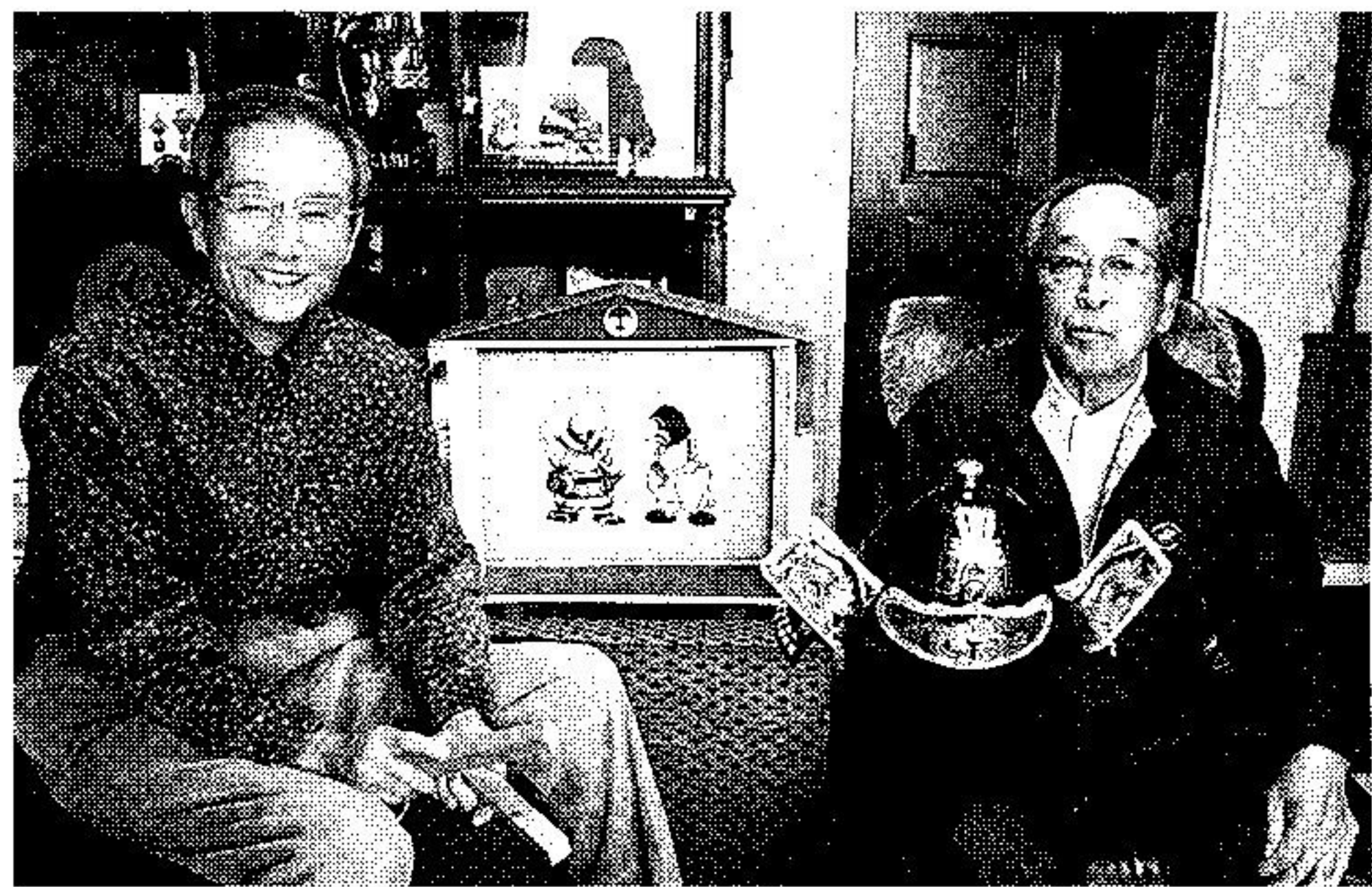
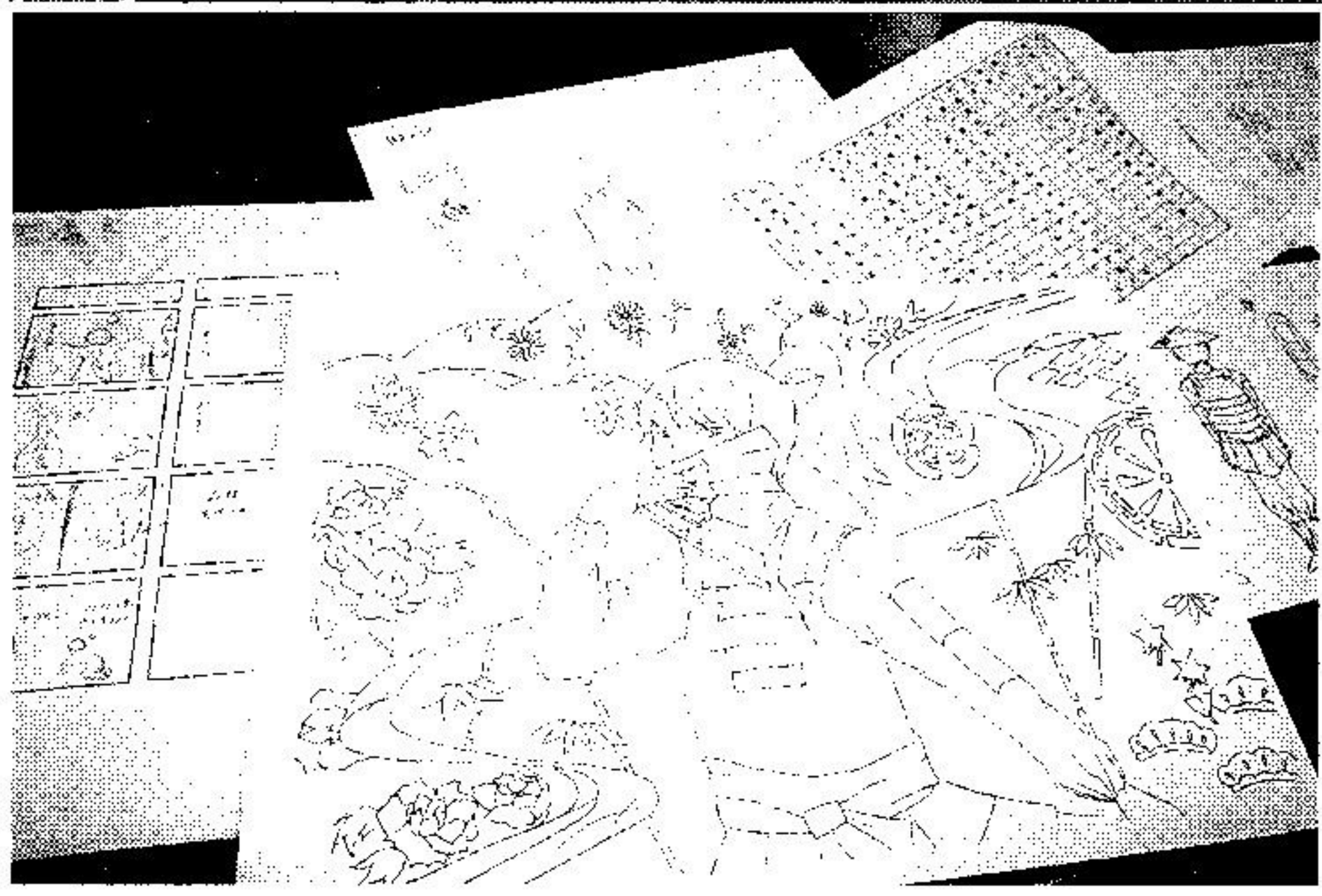
県立豊明高校イラストレーション部が「桶狭間の合戦」を描く紙芝居の制作に取り組んでいます。一昨年の「まんが甲子園」全国優勝に続き、自閉症の子どもをテーマにした漫画本の制作や老人施設への訪問など幅広く活躍する同部が、町の人たちの要望に応え1年8カ月掛けて作り込んできた作品。地元の歴史を伝える紙芝居がもうすぐ完成します。

住民たちが要望、間もなく完成予定

昨年4月、市内で観る 渕上博之さん(73) 光ボランティアを務め 栄町 Ⅱ 町の人たちが

ら「地元の歴史を紹介する紙芝居を豊明高校の皆さんに作ってほしい」と依頼を受け制作に取り掛かった同部。

「信長はイケメン。義元はむさ苦しいおじさん」にせず、毛利はダンディーに」と登場する重要人物のキャラクターイメージを確定し、歴史に忠実にと家門や当時の装束、建物の様子なども調べ直して夏に下絵を完成させました。それまで中心だった



完成を待つ渕上さん(左)と別府さん(右) 豊明市で

3年生の引退後は後輩(段ボール製)を手作りたちが受け継ぎ、画用紙に転写、ペン入れを進めてこの冬、最後の

着色作業に 宵にびっくり。これに臨みます。 10月に 負けない紙芝居を仕上は、依頼者 口彩部長(2年 Ⅱ 同市の一人豊 立栄中出身)。大塚琴葉明市甲冑同 副部長(同)は「教科 好会の別府 書の歴史が身近に。地 茂さん(73) 域の役に立てる作品に Ⅱ 同Ⅱが赤 携わったという誇りを を基調にし 持ち来年のまんが甲子 た同校の校 園へ挑戦です」と瞳を 章入り甲冑 輝かせます。世代を超 えて広がる活動。依頼 者たちは舞台を作り紙 芝居の完成を心待ちに しているそうです。